

質量分析用のイオン化標識剤に利用できる新しい光開裂性分子の開発



共同研究交流センター先端科学研究支援部門

真木 俊英 助教授

共同研究交流センター先端科学研究支援部門の真木俊英助教授らが、質量分析用のイオン化標識剤に利用できる新しい光開裂性分子を開発したことが、化学工業日報（2006年10月18日発行）に掲載されました。

新しい光開裂性分子を分析標的分子に結合させたうえで特定波長のレーザー光を照射するとイオン開裂し、負イオンをもつ開裂分子だけが標的分子に残ります。

マトリックス支援レーザーイオン化（MALDI）法に比べメカニズムが単純でMALDI法では困難な低分子化合物への適用も容易になります。また、特定の官能基を標的とした選択的分析も行えるため、質量の異なる分子を分離精製することなく一斉分析で同時に定性・定量ができます。今後分析機器メーカーや試薬メーカーなどと組んで実用化を目指しています。特許は今年6月に申請しています。

（共同研究交流センター）